

臨床内科医会に参加してみても

菅原先生にお誘いいただき、東京内科医会に理事として参加するまでは、会の活動などについては、あまり知りませんでした。内科臨床の知識のアップデートには、日本内科学会や医師会の講演会、各種雑誌記事から得ていました。しかし、臨床内科医会の学会や、会員の先生方との交流を始めて、明日から実臨床に役立つ知識や情報を幅広く得ることができるようになりました。

会員の先生方も、エネルギーで、温かく、そして真剣に地域医療に取り組んでいる先生方ばかりで、なんでも相談できる存在です。毎日の臨床で持ち上がる問題点についても、この会の先生方の誰かが、同じような経験をしていて、的確なアドバイスをしていただけると思えます。

残念なのは、実際臨床に携わる身としてこんなに安心感をもてるグループなのに、認知度が低いことです。自分もそうでしたが、一度でも臨床内科医学会などに参加したり、懇親会などで先生方とお話ししたりすれば、この会の意義もわかるのですが、なかなか参加していただけません。良いしくみが見つけられれば、もっと認知度が上がるのにとおもいます。

女性医師として

女性ということあまり意識したことはありません。会に参加して、周囲の男性医師の先生方から、女性医師の特別さを意識させられ、当初は困惑しました。しかし、男性医師の先生方が、女性を診るときの困難さを感じていらっしゃる事が、よくわかりましたので、数少ない女性会員のひとりとして、お役に立てる情報を発信していきたいと思えます。

また、女性として周囲から期待されている役割と、医師としての役割の両立に苦労されている先生方も多いと思えます。上手にこなしていらっしゃる先輩先生方からアドバイスをいただく場をもうけることで、若い女性医師の先生方のよりどころになるような場を設けられれば、もっと気楽にご参加いただけるのではないかと思っています。

開業医というのは、千差万別です。開業医の先生方のいろいろな考え方、仕事の仕方をご紹介して、若手医師の先生方が、「あ、こういうカタチもありなんだ。」と地域医療の世界に一步踏み出していただけるといいと思えます。

女性医師の開業について

職業を持った女性として出産や子育てを考えたとき、一番心配なことは、子育て中のサポートだと思えます。近所に頼りになる肉親がいれば、そして喜んで参加したいと言ってくれば最高ですが、そうでない場合には他人を頼らなくてはなりません。その点、開業するということは、周囲にサポート隊を作るようなものになります。子育て経験の豊富なスタッフを揃えれば、いざというときに頼りになります。患者さんの中には、手の空いているときに子供の面倒をみてくれる人もいるかもしれません。何より、子育てしていると、同じ世代の女性患者さんやスタッフからは「同じ仲間」として見ていただけるので、より親近感を持って

いただけます。

私事ですが、双子の子育てをしている間は、両親だけでなく「じいじい s、ばあばあ s」計 7 人が、わらわらと寄ってきて助けてくださいました。多様性に富んだ人々に育てていただいたことで、私ひとりで育てるより、ずっと精神的に安定した子供たちになったと思います。

(笑) 私自身も、子育てで煮詰まることもなく、仕事との板挟みになることもなく、安心して過ごすことができ、本当にありがたかったです。私自身の子育ての後、若いスタッフも、次々と出産を経て、帰ってきてくれました。

女性医師のキャリアを豊かにするもののひとつとして、開業という選択肢も若手医師の先生方に持っていただきたいと思います。